

水稲の作柄に関する委員会（平成23年産第2回）の意見

- 1 9月15日現在調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響
 - (1) 9月上旬から中旬にかけて、気温は全国的におおむね平年を上回り、日照時間は北日本の一部地域を除き、おおむね平年を上回って推移した。その後9月下旬は、全国的に気温は平年を下回り、日照時間はおおむね平年を上回って推移した。

また、9月上旬の台風第12号、9月中下旬の台風第15号及び活発化した秋雨前線の影響により、北日本から西日本にかけて各地で大雨となった。

今後の天候の見通しでは、全国的に気温はおおむね平年並み、日照時間は平年並みか少ないと予想されている。
 - (2) このような気象の推移・予報からすると、登熟はおおむね順調に推移するものと見込まれるが、9月の台風や大雨により倒伏や浸・冠水等の被害が発生した地域では、登熟の抑制や品質への影響が懸念される。
- 2 次期の調査（10月15日現在）に当たって留意すべき事項
 - (1) 台風及び集中豪雨による作柄・品質への影響に留意する必要がある。

特に、倒伏や浸・冠水による登熟、品質及びコンバインロスへの影響を適切に把握する必要がある。
 - (2) 8月下旬の低温・日照不足や北日本の一部地域における9月上旬から中旬にかけての日照不足が登熟や品質へ及ぼす影響の有無を見極める必要がある。
 - (3) 穂いもちや斑点米カメムシ類等の病虫害が登熟や品質に及ぼす影響について留意する必要がある。

【参考】

水稲の作柄に関する委員会委員

- | | |
|------------|-------------------------------------|
| (座長) 染 英 昭 | 財団法人中央果実生産出荷安定基金協会副理事長 |
| 黒 田 栄 喜 | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授 |
| 中 園 江 | 独立行政法人中央農業総合研究センター情報利用研究領域主任研究員 |
| 長 谷 川 利 拓 | 独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域上席研究員 |
| 平 澤 正 | 国立大学法人東京農工大学大学院農学研究院教授 |
| 前 田 修 平 | 気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官 |
| 丸 山 幸 夫 | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授 |
| 山 岸 順 子 | 国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構准教授 |